

## 令和2年度第2回新子どもかがやきプラン推進委員会の報告について

### 1 開催日時・場所

令和2年9月25日（金）13:00～15:00

岐阜県庁11階 教育委員会室及びオンラインにて開催

### 2 概要

郡上特別支援学校の再整備及び「アクションプラン2021」の策定に向けて、岐阜県の特別支援教育における現状と課題について確認し、意見を聴取した。

### 3 委員から出された主な意見

#### （1）郡上特別支援学校の再整備について

- 郡上特別支援学校の再整備については、南北に長い郡上市の地形やこれまでの経緯から、大和町を候補地とすることはよい。
- 防災の観点から、土砂災害警戒区域（イエローゾーン）は避けたほうがよい。
- 自力通学をする生徒のためには、駅から近いことが望ましい。
- 今回の意見を踏まえた上で、防災、利便性・安全性、周辺環境、地域交流、敷地条件の観点から、さらなる詳しい調査を求める。

#### （2）アクションプラン2021における新規事業（案）について

- 飛騨圏域に聴覚障がいのある幼児のための幼児教室を設置することは、対象児が地元で集団の中で学び合い、保護者も同じ悩みを共有することができるようになるため、推進することを強く求める。
- 訪問教育を受ける児童生徒が、ICTを活用した授業を受けられるようになれば、仲間との関わりが増え、社会的自立につながるようになる。
- 肢体不自由や病弱の高等部生徒に対して、「在宅就労」のための支援をすることは、就労機会が拡大することにつながるものでぜひとも進めてほしい。
- 肢体不自由や病弱の高等部生徒による在宅勤務実習は、企業と連携した実施だけでなく、教育委員会においても行うべきである。
- 入院高校生に対する学習支援について、ICTを活用することで効果があがっているが、さらに授業の撮影方法を工夫するなどして、一層充実させることが必要である。
- オンラインを活用した通級指導の理解啓発は、教師間や保護者のやり取りが円滑になるため、県全体に広げてほしい。